

カネライトフォーム[®]スーパーEX 取扱上の注意事項

▲火気注意

火気に接触すると燃えます。燃えると黒煙を発生します。従って輸送・保管・施工に際しては、火気に十分注意するとともに適切に養生して下さい。特に付近で溶接・溶断を行う際は、火花等があたらないよう確実に養生して下さい。

▲紫外線注意

直射日光に長時間（2～3日以上）さらすと徐々に表面から変色・劣化し、接着不良、厚み減少等の原因になりますので、保管に当たっては養生シートでおおい施工後は仕上げを速やかに行ってください。

▲有機溶剤注意

アルコール系以外の有機溶剤・石油類には侵されますので、使用接着剤・塗料の選択又、木造住宅の防腐・防蟻薬剤の選定及び、使用方法についても事前にそれらのメーカーにお問い合わせ下さい。溶剤を使って作業する場合は十分換気し、火気を使用しないで下さい。

▲高温注意

使用温度は70℃以下です。70℃を越えると徐々に変形し始めますので、高温での使用はさけて下さい。

▲割れ踏み抜き注意

局部荷重や衝撃には弱く割れやすい材料です。下地の無い箇所には乗らないで下さい。根太やたる木の上を歩いて下さい。

▲強風注意

軽量で取扱が容易な反面、風におおられやすいので強風下での作業は、行わないで下さい。また、保管にあたっては上におもりをのせるかロープ掛け等で、飛散防止処理をして下さい。

▲その他の注意

1. フォーム屑が目に入った場合はこすらないで流水で洗浄して下さい。
2. 熱線スライス等煙の発生する作業をする場合は、換気を十分行って下さい。
3. 廃棄の際には、条例に従って処理して下さい。燃やすと黒煙(スス)がでますのでご注意ください。
4. 鳥・ねずみ・昆虫等によって損傷を受けることがありますが、栄養源や、餌にはなりません。

注意事項に関しては、一般的取扱いを対象としたものです。

カネライトフォームスーパーEXは主として断熱材として使われることを想定しています。

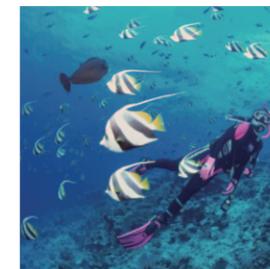
それ以外の使用に関して詳細は、弊社にお問い合わせ下さい。

※カネライトフォームは株式会社カネカの登録商標です。

高性能ノンフロン断熱材

カネライトフォーム[®]スーパーEX

JIS A 9511 A種 押出法ポリスチレンフォーム保温板 3種b



製造

株式会社 **カネカ** 発泡樹脂・製品事業部
東京本社 東京都港区赤坂1-12-32(アーク森ビル)

〒107-6025

販売

カネカケンテック株式会社 住環境事業部

■ホームページアドレス <http://www2.kenzai.kaneka.co.jp>

本社・東日本営業部 東京都千代田区内幸町1-3-3

〒100-0011 TEL.03 (3596) 7011

西日本営業部 大阪市中央区道修町4-4-10

〒541-0045 TEL.06 (6205) 3621

北日本営業部 北海道札幌市中央区南1条西9-1-15

〒060-0061 TEL.011 (222) 5231

北日本営業部 仙台市青葉区一番町4-6-1

〒980-0811 TEL.022 (722) 2901

東北営業部 新潟市中央区東大通1-3-10

〒950-0087 TEL.025 (248) 3860

新潟営業部

西日本営業部 名古屋市東区武平町5-1

〒461-0008 TEL.052 (959) 3251

名古屋営業部

九州営業部 福岡県福岡市博多区祇園町1-40

〒812-0038 TEL.092 (281) 1511

高性能ノンフロン断熱材 カネライトフォーム[®]スーパーEX

■ カネライトフォームスーパーEXの特長



優れた断熱性能

熱伝導率0.024W/(m・K)を達成。押出法ポリスチレンフォーム保温板3種bに対し、断熱性能が15%アップ。

優れた圧縮特性

押出法ポリスチレンフォーム保温板3種bの圧縮強さ20N/cm²を確保。

優れた安全性・環境性

JIS燃焼性規格合格、発泡剤のノンフロン化／PRTR対象物質のゼロ化を実現。

■ カネライトフォームスーパーEXの一般物性

項目	単位	カネライトフォームスーパーEX	カネライトフォームスーパーE-Ⅲ	試験法
JIS規格 記号・種類		A-XPS-B-3b(3種b)	A-XPS-B-3b(3種b)	
密度	kg/m ³	25以上	25以上	JIS A 9511
熱伝導率	W/(m・K)	0.024以下	0.028以下	JIS A 9511
圧縮強さ	N/cm ²	20以上	20以上	JIS A 9511
曲げ強さ	N/cm ²	25以上	25以上	JIS A 9511
吸水量	g/100cm ²	0.01以下	0.01以下	JIS A 9511
透湿係数	ng/(m ² ・s・Pa)	145以下	145以下	JIS A 9511 (厚さ:25mm)
燃焼性	—	合格	合格	JIS A 9511
ホルムアルデヒド放散区分	等級	F☆☆☆☆	F☆☆☆☆	JIS A 9511

※燃焼性の規格は「3秒以内に炎が消えて、残じんがなく、かつ燃焼限界指示線を超えて燃焼しない」ことです。

■ カネライトフォームスーパーEXの規格

	単位	カネライトフォームスーパーEX	カネライトフォームスーパーE-Ⅲ
厚さ	mm	30・35・40・45・50・55	20・25・30・35・40・45・50・55・60・65・75・90・100
幅		910	910
長さ		1,820	1,820

※規格の詳細、在庫につきましては、当社までお問い合わせください。

カネライトフォームは建材トップランナー制度対象製品(区分名:押出法ポリスチレンフォーム断熱材)です

建材トップランナー制度とは

経済産業省 資源エネルギー庁が、製品の性能をさらに向上させるように目標値を設定し、その達成を求める制度です。断熱材では、押出法ポリスチレンフォーム断熱材、グラスウール断熱材、ロックウール断熱材の3種類が対象となっています。押出法ポリスチレンフォーム断熱材の平成34年度目標基準値は、熱伝導率0.03232 [W/(m・K)]と定められています。

さらなる省エネルギー、住宅の長寿命化が求められるなか、「カネライトフォーム」は断熱材として高い評価を得ている一方で、自然との調和をはかり、未来に繋げる環境づくりに貢献します。

■ カネライトフォームスーパーEXと各種断熱材との断熱性能比較

断熱材の種類	熱伝導率 ^{※1} [W/(m・K)]	カネライトフォームスーパーEXとの断熱性能比較 ^{※2}
カネライトフォームスーパーEX	0.024	(100)
吹込み用グラスウール	0.052	(217)
グラスウール16K	0.045	(188)
高性能グラスウール24K	0.036	(150)
A種押出法ポリスチレンフォーム 1種b	0.040	(167)
A種押出法ポリスチレンフォーム 3種b	0.028	(117)
A種ビーズ法ポリスチレンフォーム 特号	0.034	(142)
建築物断熱用吹付け硬質ウレタンフォームA種1	0.032	(134)
A種硬質ウレタンフォーム 2種2号	0.024	(100)

※1 カネライトフォームスーパーEXの熱伝導率以外は、住宅金融支援機構監修の住宅工事仕様書によります。
 ※2 カネライトフォームスーパーEX厚さ100mmと同等の断熱性能に換算した場合の各種断熱材の厚さ (mm)

参考 木造住宅の壁断熱材厚さ

地域	熱抵抗の基準値 [(m ² ・K)/W]	断熱材の種類と必要厚さ (mm)	
		カネライトフォームスーパーEX	カネライトフォームスーパーE-Ⅲ
1,2	2.9	70	85
3~7	1.7	45	50

※上記の値は平成25年基準に規定される熱抵抗の基準値(外張り断熱工法の場合)から算出した厚さであり、弊社規格厚さではありません。

施工例



カネライトフォームスーパーEX 外張り断熱施工例

参考 木造住宅の床断熱材厚さ

地域	熱抵抗の基準値 [(m ² ・K)/W]	断熱材の種類と必要厚さ (mm)	
		カネライトフォームスーパーEX	カネライトフォームスーパーE-Ⅲ
1~3	3.3	80	95
4~7	2.2	55	65

※上記の値は平成25年基準に規定される熱抵抗の基準値(充填断熱工法(その他の部分)の場合)から算出した厚さであり、弊社規格厚さではありません。

- 「エネルギーの使用の合理化に関する法律」に基づく省エネルギー基準が平成25年に改定されました。この新しい基準では外皮性能に加えて一次エネルギー消費量も指標として導入されたほか、地域区分の見直し等も行われています。表中の厚さは、「住宅に係るエネルギーの使用の合理化に関する設計、施工及び維持保全の指針」の附則に記載されている仕様基準に適合する値を記載しています。この方法は、当分の間、有効な方法として定められています。
- 屋根又は天井、外壁、開口部、床等の外皮等面積の合計に占める開口部面積の合計の割合(開口部比率)が所定値を満足する必要があります。

・地域区分

従来の基準	I		II		III		IV		V		VI	
住宅トップランナー基準	Ia	Ib	II	III	IVa	IVb	V	VI				
平成25年基準	1	2	3	4	5	6	7	8				